

10月の予定

- 1日(日) 会報「まごころ」発行
定例会 介護技術と排泄介助について勉強会
- 4日(水) 運営委員各部会
- 5日(木) ミニデイサービス(場所・保育園)
- 宮保ボランティア 塚本、田中
- 11日(水) 運営委員各部会
- 12日(木) ミニデイサービス(場所・事務所)
- 宮保ボランティア 大橋、野田
- 16日(月) - 宮保ボランティア 谷、小川
- 18日(水) 運営委員各部会
- 19日(木) ミニデイサービス(場所・保育園)
- 宮保ボランティア 宮田、野田
- 21(土)22(日) 福祉とボランティア展にミニデイ参加
- 23日(月) - 宮保ボランティア 岩田、小出
- 25日(水) 理事会
- 26日(木) ミニデイサービス(場所・事務所)
ミニデイ定例会
- 宮保ボランティア 野田、倉知
- 30日(月) - 宮保ボランティア 岩田、小出

福祉用具リサイクル情報案内

【譲りたい情報】

- ◆シャワーチェア 1台
- ◆手すり(洋式トイレ用)
- ◆手すり付きポータブルトイレ
- ◆椅子型ポータブルトイレ(緑)

【譲りました情報】

- ◆電動ベッド 1台

8月有償活動

在宅 活動件数	18件
” 活動人数	18人
” 活動時間	249時間
ミニデイサービス利用者	49人
移送サービス利用件数	99件

8月会員登録状況

協力会員	42人
利用会員	65人
賛助会員	124人
計	231人

8月介護保険訪問活動

訪問件数	37件
家事	265.5時間
複合型	181.5時間
身体	209.5時間
合計	656.5時間

定例会勉強会から (9月の定例会)

◆山下病院緩和ケア病棟川島婦長から

「終末ケアについて」

愛知県にはホスピスが2カ所あります。その一つが山下病院の緩和ケア病棟です。お話しの方針一つは、私たちの在宅支援活動にも学ぶことばかり、多くを胸に刻みました。

緩和ケア病棟には、自分の病気についてよく理解をされている患者さんが入院されており、生活の質を高めることがケア目標であること。

恐れ・孤独・怒りなど精神的苦痛、仕事・経済・家庭など社会的苦痛、人生や生きていることへの意味の問いかけなど苦痛を抱えられた方々にいい看護をするには精神的アプローチが大切と話されました。

- ①患者さんの話を聞くときはベッドサイドに座り込む。座るといふことは、目の高さをおなじにすることと、そこにとどまることを示すこと。すぐに立ち去りませんから安心して下さいのメッセージ。
- ②傾聴(十分に相手にあわせてお話しを聴くこと) 否定はしない/受けとめる/安易に励まさない 人間関係が出来ていけば何も話さなくてもいい。何もしなくてもそこに存在することが大事。
- ③患者さんの流れに合わせる。 普通、病院は病院の流れに患者を合わせる人が多い。
- ④「お邪魔します」という気持ちでケアをする。
- ⑤個人を知って看護にあたり、さらに家族のケアも大切なこと
- ⑥患者さんやご家族の希望を達成できるよう支援する(死が悲しいだけのものにならないために)

山下病院のしおり《緩和ケア病棟とは》に

「癌に対する痛みやさまざまな苦痛・不安を緩和することで『いのち』の甦生をめざすところでは決して座して死を待つところではありません。そして、患者さんとそのご家族がいつまでも快適な生活を送られるようお世話するところです」と説明がある。

死を待つところではないが、病と死と向き合うところではある。どう終末を迎えるのか、考えさせられるお話でした。

聴心器

「緩衝」 加藤 俊男

それは酷暑の夏から始まりました。発汗の異常な多さに、何かの病気ではないかと不安になった方もいたくらいです。確かに、発汗は発熱、消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、自律神経不全症などにみられますが、気温が高いときの発汗は、気化熱により体温を下げるための生理的現象ですので、汗をかかなくなると体温が上昇しやすくなります。

実際、室内で熱中症になり、肺炎の時ですえ38度Cを超えたことのない方がいきなり40度Cになってしまったこともありました。もちろん、人に限ったことではなく、街路樹のハナミズキも枝葉をうなだらせ、熱帯魚のグッピーも尾鰭の華麗な舞を止めてしまいました。

そうしているうち、突然の豪雨の襲来です。被災地の方々には気の毒ですが、都市型住環境の脆弱さを実感させられます。それよりまして、この自然の猛威に何らかの警鐘を感じます。オゾン層の破壊やCO2による地球温暖化、山野の切り崩し、樹木の伐採などによる自然の緩衝力への介入。

「地球を救え」などというスローガンこそ人間の傲慢さの表れであると言った霊長類研究所所長の言葉を思い出します。なるほどマンモスは滅びても、地球は平均気温が氷点下になっても滅びませんでした。滅びるのは、限られた環境でしか生存できない人間なのです。巨大化した人間社会が生んだ大量の排泄物による環境汚染は人間の体内に蓄積されていくだけのことなのです。例えば、人間の細胞は、環境であるPHがごく狭い範囲内ではしか生きてゆけません。このPHは酸性とアルカリ性との相反する力のバランスで上手に調節されています。同じように、ヒトと自然、動物と植物、無機体と有機体、風と水などのバランスを保ち、調和していく必要があるのではないのでしょうか。酷暑から豪雨への無情な変異に、自然への畏敬の念を喚起させられた夏でした。

(加藤内科クリニック院長)

FAX番号変更のお知らせ

訂正をお願い致します。(終日対応します)

0586-73-8870



11月の定例会は

- 11月5日(日) 事務所 9時30分~12時30分
- ◆定例会 9時30分~10時30分
- ◆ケア検討会 10時30分~12時30分

この日の午前のケアはお休みです
利用者さんよろしくお願ひ致します